

重点施策点検・評価表

2-1

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
1	ふるさとキャリア教育を通して、自立の気概と能力を備えた人財の育成に努める	担当課(館)
	① 大館の未来を切り拓くための総合的人間力(「人間的基礎力」「大館市民基礎力」「大館市民実践力」)の育成	
	活動内容	ふるさとキャリア教育9年目を迎え、「大館盆地を学舎に、市民一人一人を先生に」を具現化するために、子どもハローワークを充実させる。また、高校や大学と目標を共有し、地域や企業と一体化した取組を充実していくことで、社会への出口を確実に地域につなぐ。生涯学習との連携により、ふるさとキャリア教育を学校教育にとどめることなく、市民意識の醸成につなげる。
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)
	課題等	学校教育を卒業した市民への継続的な取組として、市民によるふるさとキャリア教育、リカレント教育とどのように連携していくか、生涯学習課との連携により、新たな発展を模索する。
	学識経験者等の意見	教育の方向性、手法が分かりやすく設定されている。地域と一体化した教育となり、子どもたちの力量形成につながっている。全国学テの意識調査において、自己肯定感が高いのも、「地域のために何をなすべきか考えることがある」が高いのも、教育の成果と見なすことができる。課題の捉え方も、市民相互の成長を包含していて賛同できる。
	② いじめ・不登校問題の予防及びその克服のための支援体制の充実	
	活動内容	いじめ・不登校調査の分析と活用、関係機関との連携により、未然防止と早期対応を一層充実させる。特に、不登校については、早期対応を全小中学校に徹底するとともに、管理職、生徒指導主事の意識を高め、家庭への支援については関係機関との連携を強化する。
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input checked="" type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)
	課題等	不登校の背景として、ネットやゲーム依存による昼夜逆転、親子関係や養育の課題が事例として明らかになっている。社会全体が、ネットやゲーム依存への危機感を高め、児童生徒を守っていく機運を醸成するために、(仮称)ネットゲーム等依存防止対策条例の策定を検討していく。
学識経験者等の意見	「ネットゲーム等依存防止対策条例」という文言からすると、子どもを押さえてしまうようにも感じられるが、困っている親には「止めさせたい」という気持ちをもたせることができるのではないかと。不登校については、おおとり教室や少年相談センター、子ども課など多くの相談機関を市が用意しているので、子どもにとって気持ちの変化や現状を抜け出すきっかけになると思う。一人一人に合わせた対応の仕方で、時間と日数をかけて長い目で見てやってほしい。	

重点施策点検・評価表

2-2

基本目標	
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化
重点施策	
2	地域学校協働活動を推進し、スクール・コミュニティーの形成を図る
	担当課(館) 学校教育課 教育研究所
① ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開	
活動内容	ふるさとキャリア教育夢事業、ふるさとキャリア教育ステップアップ事業を活用して、各校の百花繚乱作戦をより充実・発展させ、地域全体を巻き込んだ教育活動にしていく。地域の学習材等の教育資源を活用した授業や起業体験活動の開発を支援、奨励し拡充していく。
点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)
課題等	各校の実践内容を把握し、どのような橋渡し、協力ができるか、情報提供をしていくとともに、活動によって子どもにどのような資質能力が育つのか、地域にどのような影響があるのかなど、学校が成果を意識できるよう指導していく。
学識経験者等の意見	ステップアップ事業は目標と活動が連動している。百花繚乱作戦で子どもたち一人一人が提案できる状況は、成長できる大きな機会となっている。自分たちが考えたことを成し得た時の達成感で、成長を立証できると思う。また、マスコミにも取り上げられることで、自分がやったことに対する重さを感じ、次へのモチベーションにつながっていく。達成率が「目標を上回る」になっているのは適切である。
	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
② 地域に開かれた教育活動の取組による元気の発信と地域貢献	
	学校教育課 教育研究所
活動内容	企業博覧会やきりたんぼまつり等、地域の企業や団体が企画するキャリア教育が充実するよう助言し、学校の協力を促す。保護者を含めた市民へふるさとキャリア教育の理念や各校の百花繚乱作戦をマスコミを積極的に活用して情報発信する。
点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満)
課題等	SNSによる発信は、全国からより多くの方々の目に留まるように研究し、さらに充実していく。地域興し協力隊が、移住交流課等の他課と情報共有し、連携先を開拓する。
学識経験者等の意見	テレビや新聞の取材を多く受け入れて情報を発信するのも、子どもたちのためなのだという捉え方をしたい。どの学校も遠慮せず発信してほしい。小さなことでも貴重である。「①ふるさとキャリア教育を根幹とした特色ある学校経営の展開」と「②地域に開かれた教育活動の取組による元気の発信と地域貢献」は連動していると考えられる。活動と成果を地域で共有できることが大きいし、学校や子どもたちのモチベーションの向上にもつながる。
	<input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度

重点施策点検・評価表

2-3

基本目標			
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化		
重点施策			
3	共感的・協働的な学び合いへの充実を図り、おおだて型授業(響学)を推進する		担当課(館)
	① 第9次学力向上に関する提言の周知と、「おおだて型学力」育成に向けた授業改善		学校教育課 教育研究所
	活動内容	第9次学力向上に関する提言(3カ年)を受け、授業改善に向けた研修会を充実するとともに、学校訪問による適切な指導・助言により校内研究を充実させる。また、教育専門監、授業マイスター、コア・ティーチャーを活用した師範授業の提供、教育研究所による若年教員への授業支援などの取組により、「共感的・協働的な学び合い」を実現する。	
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 教育研究所が「授業力向上支援研修」を主催し、授業技術や学級経営に優れた教員の授業を若手教員が年に2回程度参観できるようにした。また、感想記入に加えて授業者と参観者が対話する時間を20分ではあるが設けたことで、若手教員にとって大きな刺激となったことが感想から伺えた。 教師主導の一斉指導授業はほとんど見られなくなり共感性のある授業に移行しつつある一方、深い学びに至る授業を実現する指導力・教材研究については継続的に取り組む必要がある。	
	課題等	参加対象が採用2~9年目の教員としていたが、他県での教職経験があり新規採用になった教員にも、おおだて型授業を理解してもらうために、参観可能な体制にしていく。前教育専門監(現教育研究所長)の指導力を活用して、実地指導のできる体制も試行する。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	授業力の向上で努力することは、教職員のゴールのない課題であるが、子どもに対する責務を果たそうとする気持ちを持ち続けてほしい。本市は改善の方向性が明確である。また、市内の様々な組織の中に、指導助言できる人材を随所に位置付けているのが心強い。	
	② 各校の研究実践を県内外に発信・交流することによる評価及び改善		学校教育課 教育研究所
	活動内容	新規の「おおだて型教育発信事業」を推進するため、教育アテンダント2名を活用し、大館市の教育ブランド48を全国の教育関係機関に発信する。各種研修や留学、教育実習、サマースクールの受入等を本格稼働し、各小中学校が外部との交流による情報交換や研究協議をすることで自らの実践を振り返る機会を得る。また、客観的な評価や感想を参考にすることで授業改善につなげる。	
	点検評価	<input checked="" type="checkbox"/> 目標を上回る <input type="checkbox"/> 目標どおり <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (達成率100%超) (95~100%) (80~94%) (80%未満) 地域興し協力隊の教育アテンダントが配置となり、教育ツアーコンダクターと2名体制で、年間69件の各種視察を受け入れ、大変高い評価を得ている(アンケート他)。首都圏からのサマースクール(15名)、初のウインタースクール(21名)の企画、運営を成功させ、次年度の見通しを持つことができた。11月8日には、文部科学省若手職員の主催する「教育・学びの未来を創造する教育長・校長プラットフォームin大館」を開催し、授業公開と共に全国の参加者と本市の教職員が交流する機会を得たことは大きな成果だった。	
	課題等	各校への視察内容を、授業参観だけではなく、各校の教職員と研究協議の場を設けることで、県外との情報交換ができることともに、直接外部からの感想や評価に触れ、視野を広げ、さらなる授業改善の意欲につなげる。	取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	県外からの訪問では授業参観だけでなく、一步踏み出して現場の先生と訪問者がディスカッションすることで、生で考え方を交換できる。大館にいながらにして、他県の参観者の知見を習得できる良い機会でもある。先生方の財産にもなり、子どもたちの成長につながる。他に開かれた授業という設定が効果を生んでいる。教育アテンダントや教育ツアーコンダクターという人材は、得がたいものがある。		

重点施策点検・評価表

2-4

基本目標		
2	ふるさとを担う「未来大館市民」を育成する学校教育の深化	
重点施策		
4	次期学習指導要領を見据えた教育環境や基盤の整備を推進する	担当課(館)
	① 未来大館市民としての資質・能力を育成するための体制を構築する	学校教育課 教育研究所
	活動内容	小学校は2020年度、中学校は2021年度の完全実施を目指し、英語教育、道徳、プログラミング教育等に対応するため、関係機関と連携した推進体制を構築したり、カリキュラムの作成や教職員の研修を実施したりする。小学校外国語活動では、外国語活動支援員の配置、大館オリジナル教材を活用し「大館スタンダード」を進める。また、ふるさとキャリア教育の新たな視点として導入する経済教育を各小中学校で進める。
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 小学校の新学習指導要領に対応する年間指導計画を教育課程編成委員会を組織して作成し、各校に配付した。また、全教科の指導書(英語・道徳の指導書や教材も追加)を予算化し、全小学校の学級に配付することができた。プログラミング教材は、小学6年生の理科教材を市教委に準備し、全小学校に貸出ができる体制とした。3~6年の外国語活動の全ての授業時間に、外国語活動支援員を配置できるよう増員した。 本市オリジナル教材(外国語活動・経済教育のテキスト)についても活用を図ることができた。
	課題等	体制整備や教材の準備ができたことから、それらが学校現場に十分に活用できるよう研修会や指導助言をしていくとともに、検証・評価をしながら改善を図っていく。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
	学識経験者等の意見	行政は外国語などの指導書や教材を予算化し用意できたことで、教員の信頼を得ることができる。道徳や外国語の評価の仕方の準備を、怠りなく進めていることを大きく評価したい。小学校英語教育推進アドバイザーは、他市にも講話に行っているようだが、内容的にしっかりしていて分かりやすいという感想が聞かれた。経済教育は社会生活をしていく上で欠かせないものであるため、これからは楽しみである。
	② 学校と行政の連携により、個性や特性が発揮できる教育環境や教職員の職場環境の整備	学校教育課
	活動内容	第2次学校教育環境適正化検討委員会の提言をもとに、準備委員会を立ち上げ、基本方針を作成する。(学校の施設設備、プール、給食施設の検討も含む) 教職員の働き方改革を進めるために、校務支援システムによる事務負担軽減を図る。来年度の本格稼働を見据え、適切な運用に向けた準備・研修を行う。
	点検評価	<input type="checkbox"/> 目標を上回る (達成率100%超) <input checked="" type="checkbox"/> 目標どおり (95~100%) <input type="checkbox"/> 目標をやや下回る (80~94%) <input type="checkbox"/> 目標を大幅に下回る (80%未満) 第2次学校教育環境適正化検討委員会の提言をもとにして、教育委員会内で構成する準備委員会で「第2次大館市学校教育環境適正化計画」を策定した。教育委員、議会への説明を終え、令和2年度には、長木小給食施設を北地区給食センターへの統合を進める。 校務支援システムが夏に導入され、段階的に講習会をしながら、試行を開始した。4月の本格稼働を目指して、何度も現場と意見交換をして進めている。まだ、システムに慣れるまではいかないため、不自由さはあるが今後、事務業務の軽減につなげていく。
	課題等	国が進めるギガスクール構想により、一人1台タブレットPCと校内にネット環境を整える。新たな時代の学習環境づくりに、行政と学校現場が十分共通理解しながら、児童生徒が便利な電子文房具として活用できるよう研究を進める。 教職員向けの校務支援システムの導入は完了したが、帳簿作成等の作成業務は始まったばかりであり、現場の声を拾いながら、使いやすいものにしていく。 令和2年度は長木小の調理場を北給食センターに統合するために、保護者の理解を得ながら、令和3年度の運用に向けた準備を進める。 取組の方向性 <input checked="" type="checkbox"/> 継続 <input type="checkbox"/> 廃止検討 <input type="checkbox"/> 単年度
学識経験者等の意見	学び方の一手法としてタブレットを活用した学習がある。働き方改革として、校務支援システムの導入は、よくやったと評価したい。教職員の事務負担を軽減することで、子どもに目を向ける時間を確保できる。財政面など関係した各課がよくやってくれている。導入した価値観がしっかりしていないと、周りを納得させることができない。教育委員会が機能していると感じる。	